

野菜の作業

今月から春用野菜の本格的な育苗が始まります！
栽培適温を参考とし、保温・換気に注意をしましょう！

種まき	栽培管理のポイント			
二十日大根 品種：コメット ホウレンソウ 品種：ホライ・トライ 小松菜 ハウス育苗野菜の播種 ↓温床線で保温必要 春レタス：スティイー キャベツ：YRSE ⇒ハウス用：中旬～ 春ハクサイ：優黄・彩星 ⇒ハウス用：下旬～ 果菜類（トマト・ナス等） ⇒ハウス用：上旬～	トマト・ピーマンの育苗目安 定植日から逆算し播種が遅れないように準備を進めましょう！			
	葉茎菜類の発芽適温（℃）			
	種類	最低温度	最適温度	最高温度
	キャベツ	2～3	20～25	35
	ハクサイ	4	18～22	35
	ブロッコリー	2～3	15～25	35
	レタス	3～4	15～20	30
	パセリ	3～4	18～22	30
	セルリー	3～4	15～20	30
	品目	作型	播種(旬)	定植(旬)
トマト	ハウス	2/上	4/中	65日
(ナス)	露地	3/下	5/下	60日
ピーマン	ハウス	2/上	4/下	80日
	露地	3/下	6/上	70日
園芸培土と育苗箱	規格		使用量	主な作物
まき付け床	50cm×35cm×7.5cm		2箱	レタス・キャベツ等(4～5月植)
ペーパーポット	4.7角×5cm (72穴)		3.6枚	ハクサイ・キャベツ・ブロッコリー等
ポリ育苗鉢	径9cm (3寸)	3号	80鉢	レタス
	径12cm (4寸)	4号	35鉢	キャベツ・ハクサイ等(4～5月植)

【上記表の使用量は市販育苗培土20Kg=25鉢の目安】



質問コーナー

春に「ダイコン」を蒔いたら、収穫前に「とう立ち」してしまいました。原因と対策を教えてください。

農業豆知識

作物が温度や日の長さの影響を受け、種を作るために「花芽」ができることを「とう立ち（抽台）」といいます。ダイコンは作物の大きさに関係なく「低温」に遭遇すると「花芽」ができるグループです。種まきが早すぎたため低温にあたったことで抽台が始まったと思われます。

種まきの時期を遅らせる。晩抽系（抽台が遅い）品種を用いる等の対策をとると良いでしょう。

野菜の花芽のつき方（抽台生理）について

抽台生理及び注意事項	作物名
低温で花芽がつく 苗の大きさに関係なく12℃以下の低温に遭うと花芽を作る。夏～秋は作りやすい。春先は晩抽系品種で抽台を回避する 一定の大きさになった苗が低温に遭遇し花芽をつける。タマネギなどは低温を感じない小苗で越冬をさせる必要がある	ハクサイ・ダイコン・ツケナ等 晩抽系品種：ハクサイ⇒優黄・彩星 ダイコン⇒おしん・おはる キャベツ・セルリー・パセリ・ニンジン ゴボウ・タマネギ・ネギ等
高温で花芽がつく 夏の高温で花芽をつくる	レタス・シュンギク等
長日で花芽がつく 日が長くなるにつれ花芽をつくる 夏ホウレンソウは西洋種をつくると良い	ホウレンソウ

果樹の作業

黒木消毒について！【黒木消毒とは・・・】

落葉樹は寒さが厳しい冬期間、葉を落として「休眠」に入りますが・・・

ハダニ・カイガラムシ等の害虫や「うめの縮葉病」「プルーンのふくろみ病」等に代表される病原菌も、樹被の隙間等で越冬しています。葉を落としている（黒木）時期に、黒木消毒（石灰硫黄合剤）を行うことで、病虫害の密度を減らすことができます。

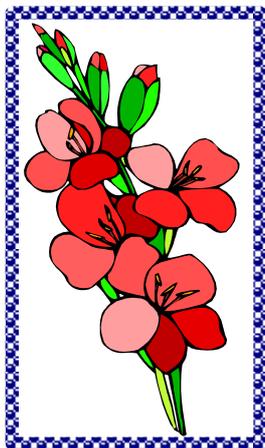
「石灰硫黄合剤」は「落葉果樹」に登録があります。

石灰硫黄合剤の登録について

作物名	適用病虫害名	使用時期（旬）	希釈倍数	使用方法
落葉果樹 （うめ・プルーン等）	カイガラムシ類 ハダニ類	発芽前	7倍	散布
りんご	黒星病			
もも	縮葉病・胴枯病・黒星病			

【注意事項】

- 石灰硫黄合剤は強アルカリ性である。
⇒銅製剤・マシン油乳剤・ボルドー液などアルカリ性が強い薬剤とは混用しない。
- ⇒有機りん剤等、アルカリで分解しやすい薬剤とは混用しない。
- ⇒皮膚や目に入らぬよう十分に注意して散布を行う。



栽培のすすめ ～「グラジオラス」～

グラジオラスはアヤメ科の1年生球根植物で、別名：唐菖蒲とも呼ばれています。上小地域では依田窪地区や神川地区を中心に栽培が伸びています。花にボリュームがあるので直売所でも「主役」になる花です！

【栽培のメリット】

- 栽培が比較的容易⇒球根のため失敗が少ない。
- 栽培可能な期間が長い⇒他の品目との組み合わせが可能。
- 水田転作でも栽培が可能⇒水田・畑地それぞれに向く品種がある。

作型はビニールハウスを用いた「促成栽培」から始まり、4～5月に定植して7～8月に出荷する「普通露地栽培」冷蔵球根を7～8月に定植して10～11月に収穫する「抑制栽培」などがあります。

【グラジオラスの露地普通栽培・抑制栽培】

月	4	5	6	7	8	9	10	11
露地	← 定植 →			← 収穫 →				
抑制				← 定植 →			← 収穫 →	
管理	← 防除 →		灌水・除草	← 穂焼対策 →		← 防除・除草 →		

【栽培のポイント】

- 初めて栽培する場合は数品種を選択し、30坪（3000球）程度から始めてみましょう！
- 畑の準備：日当たりが良好で、水はけも良い灌水できる畑を選びましょう（転作に向く）
- 施肥：球根の大きさ・品種によって異なります。⇒土壌診断を行いましょう
- 床作り・定植：床幅120cmにし、50cmの通路をとり、条間15cm×株間12cmの千鳥植え⇒20cm間隔の5目のネットを用意し、倒伏を防止します
- 穂焼けの防止：抑制作型は夏の高温期に「穂が焼ける」ので、日除け対策を行います。
- 主な病虫害：アブラムシ⇒ウイルス病 ダニ・ヨトウムシ
- 出荷：採花最適期間は比較的短いので、朝夕の涼しい時間帯に1日2回花を切る。
（品種と定植時期の分散で、採花の集中は避けられます）

是非！栽培をご検討下さい！